

アンケート調査結果の報告

令和6年9月

けいはんな学研都市（京都府域）
地域公共交通協議会

1. 住民アンケート | 調査概要

○区域内住民の移動実態や、公共交通への要望を把握するため、けいはんな学研都市（京都府域）内の住民に対してアンケート調査を実施した。

対象	区域内的の住民計9,000世帯（3市町各3,000世帯） ※対象世帯は住民基本台帳に記載されている16歳以上74歳以下の住民から、各市町において無作為に抽出
方法	WEBアンケート方式 （調査対象世帯に対してはがきの郵送によりURLを周知）
期間	2024年7月1日～7月22日
回答	1,483票（回収率16.5%）
内容	<ul style="list-style-type: none">● 回答者属性<ul style="list-style-type: none">・居住地、年齢、職業・運転頻度● 移動特性<ul style="list-style-type: none">・移動目的別の主な移動手段● 公共交通に対する要望等<ul style="list-style-type: none">・公共交通利用時のアクセス満足度・鉄道・バスに関する改善点、鉄道路線・バス路線の新規路線に対する意見● 今後の公共交通の運営に対する意向<ul style="list-style-type: none">・未来の公共交通に対する期待・公共交通の利用促進に向けた取り組み・リニア中央新幹線、北陸新幹線の中間駅設置に対する期待

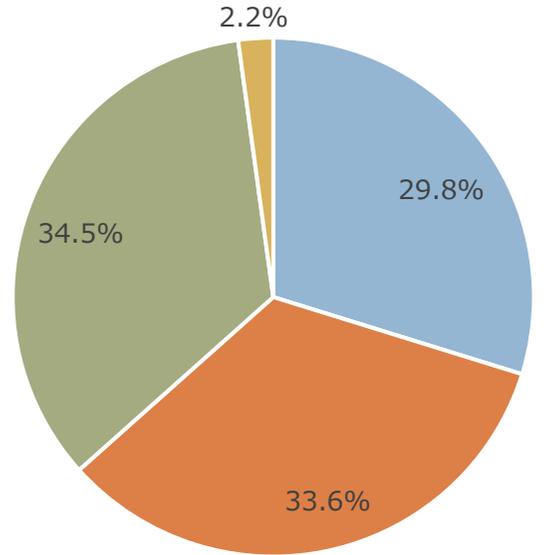
1. 住民アンケート | 調査結果

調査結果① 回答者属性

○3市町から偏りなく回答を得た。

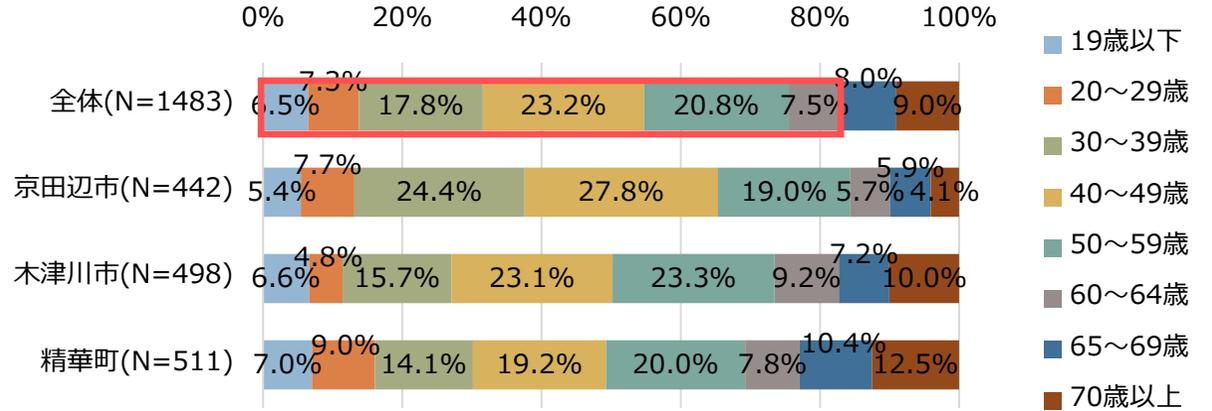
○**回答者構成は生産年齢人口（64歳以下）が回答者の約83%**を占める。また職業は会社員・公務員が4割以上を占める。

■居住地

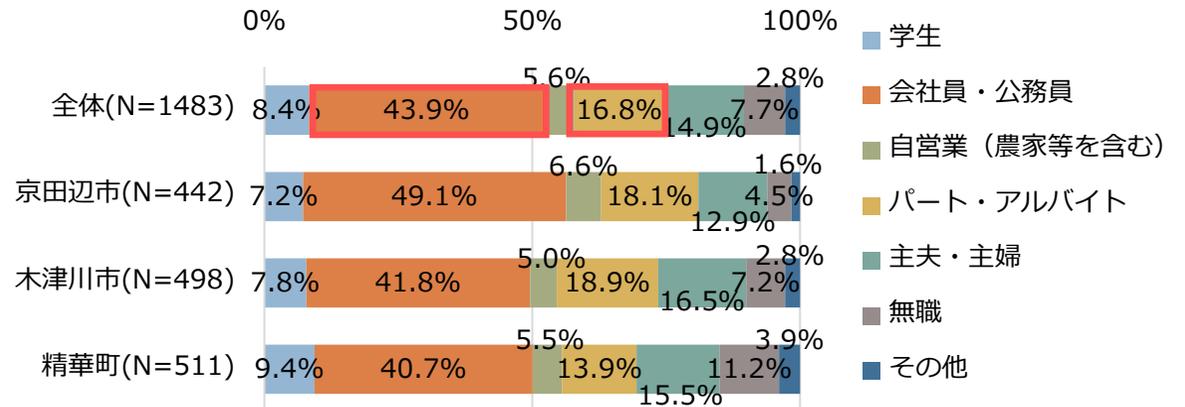


■ 京田辺市(N=442) ■ 木津川市(N=498)
■ 精華町(N=551) ■ その他(N=32)

■年齢



■職業

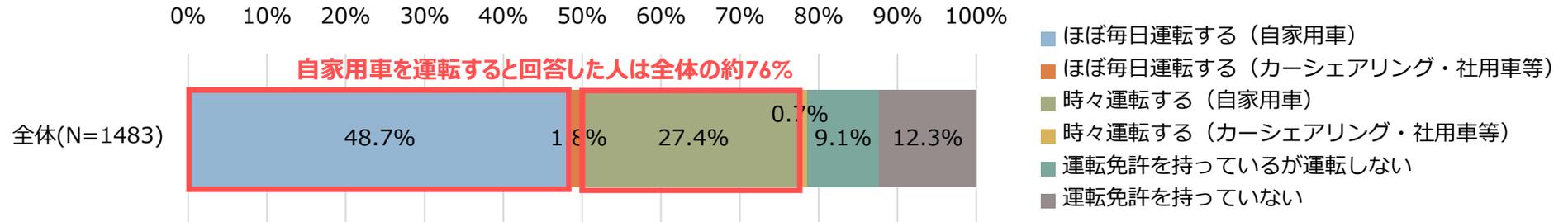


1. 住民アンケート | 調査結果

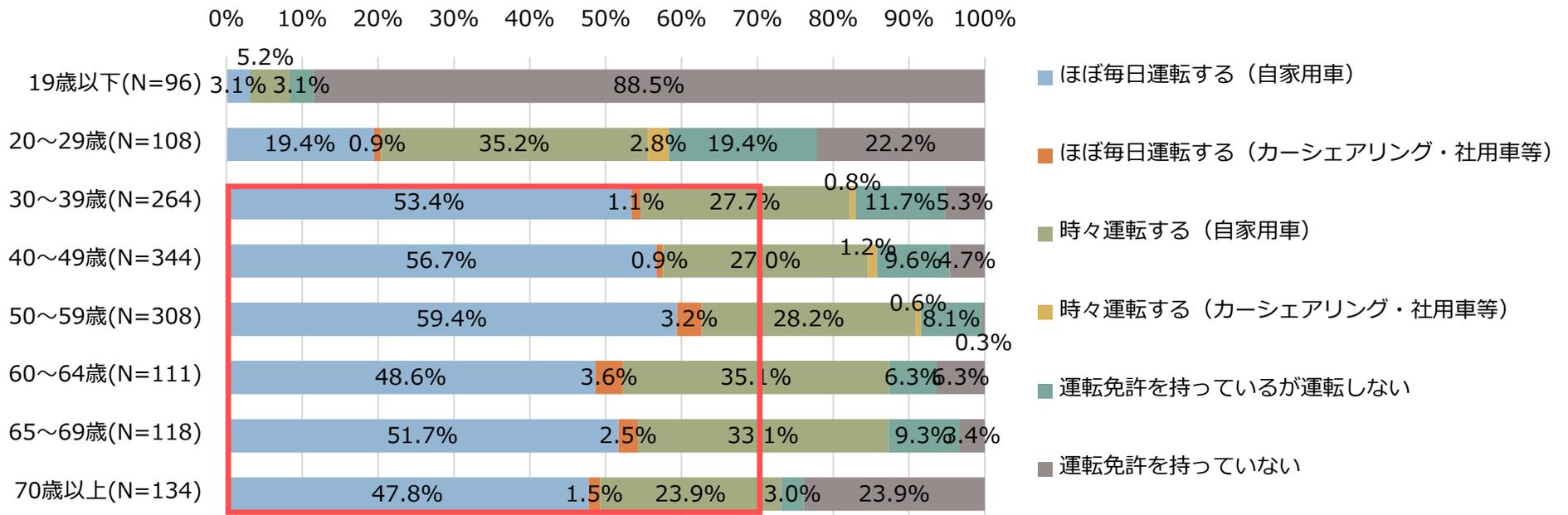
調査結果① 回答者属性

- **自家用車を運転すると回答した人は全体の約76%。**
- 30歳以上の年代は「ほぼ毎日運転する」「時々運転する」が70%以上を占める。

■ 運転頻度 (全体)



■ 運転頻度 (年代別)

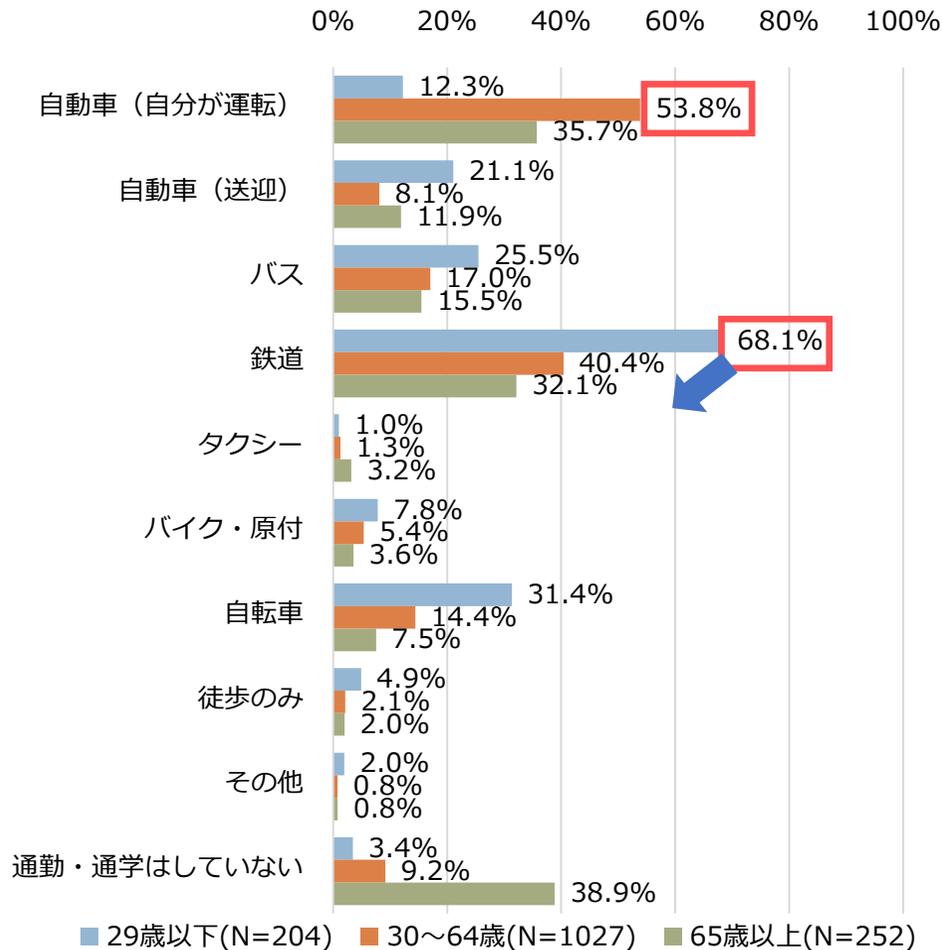


1. 住民アンケート | 調査結果

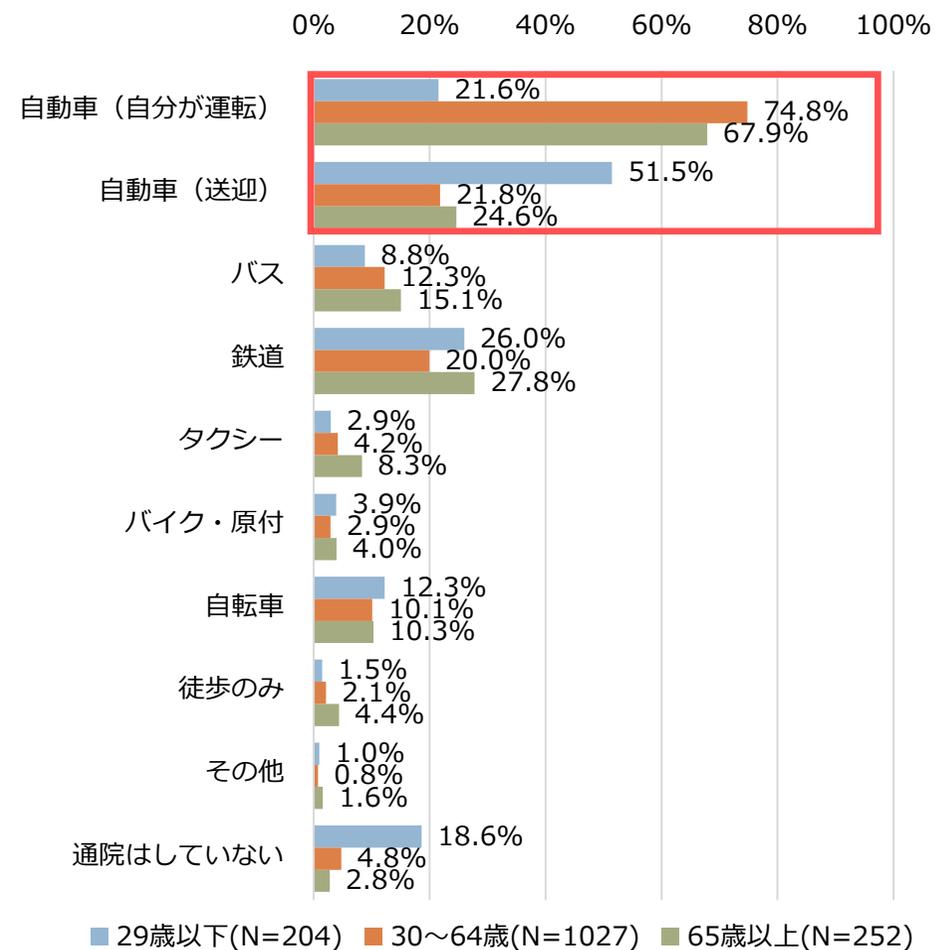
調査結果② 移動特性

- **通勤・通学時の移動手段としては、29歳以下の約68%が鉄道を利用している。**一方、年代が上がるにつれて鉄道の分担率が下がり、**30～64歳では約54%が自動車（自分が運転）を利用している。**
- **通院時の移動手段は自動車が主に利用**されており、特に30歳以上の年代で約7割が「自動車（自分が運転）」と回答。

■ 通勤・通学時の利用手段（複数回答）



■ 通院時の利用手段（複数回答）

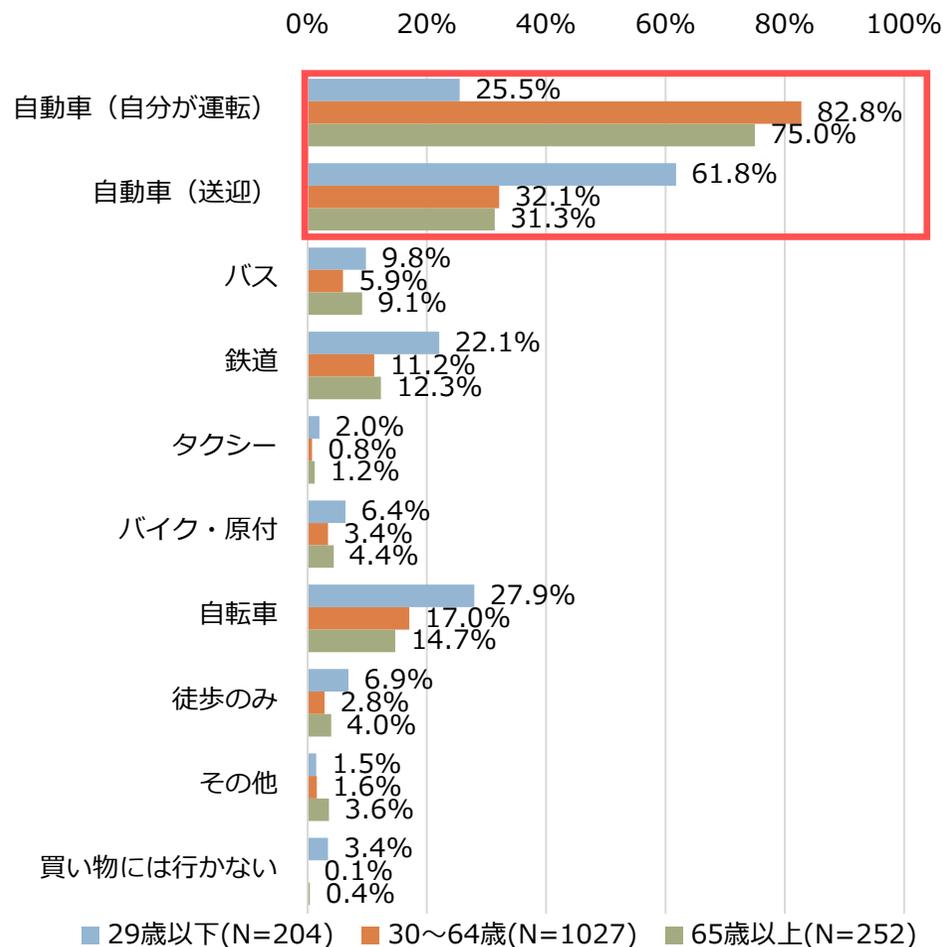


1. 住民アンケート | 調査結果

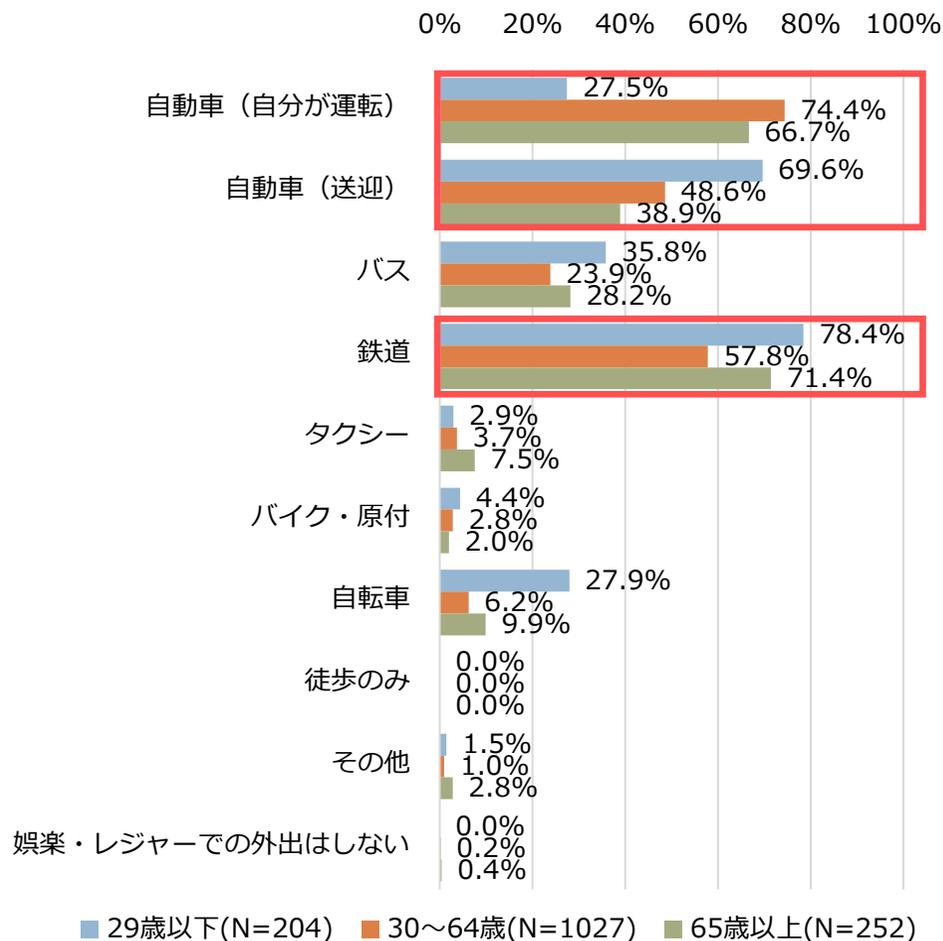
調査結果② 移動特性

- **買い物時の移動手段としては自動車が主に利用**されており、特に30歳以上の年代では「自動車（自分が運転）」が約8割を占める。
- **レジャーでの移動手段では、全ての年代において、自動車のほか鉄道も多く利用**されている。

■ 買い物時の利用手段（複数回答）



■ 娯楽・レジャー時の利用手段（複数回答）

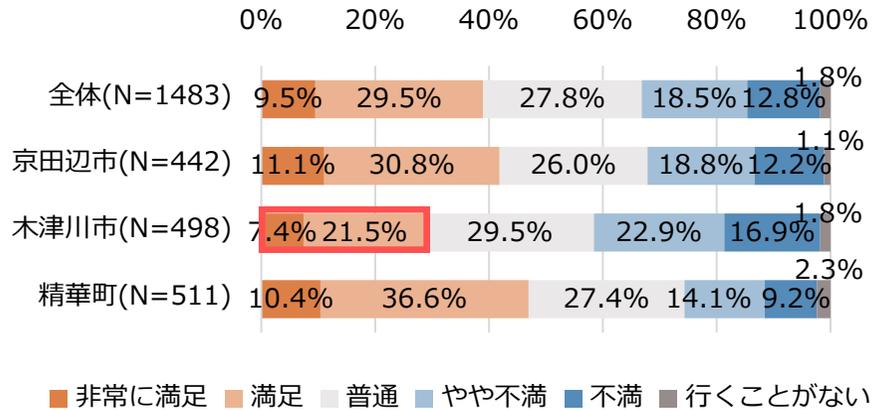


1. 住民アンケート | 調査結果

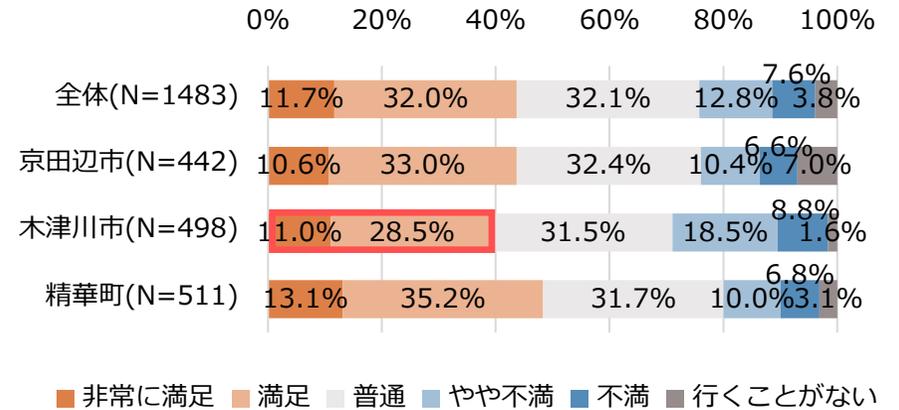
調査結果③ 公共交通に対する要望等

- 京都市内、奈良市内へのアクセス満足度に比べ、大阪市内へのアクセス満足度は低い傾向。
- 関西国際空港は「やや不満」「不満」が全体の40%程度を占める一方で、「行くことがない」の回答も30%弱を占める。
- 木津川市のアクセス満足度は、京都市内、奈良市内、大阪市内ともほかの2市町より低い。

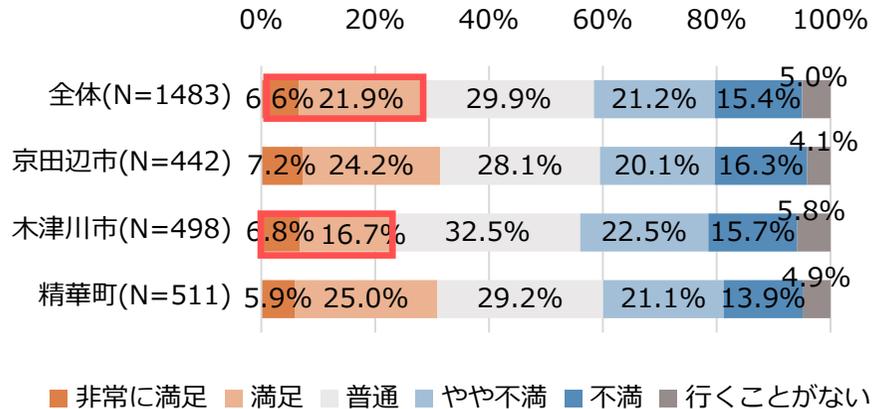
■京都市内へのアクセス満足度



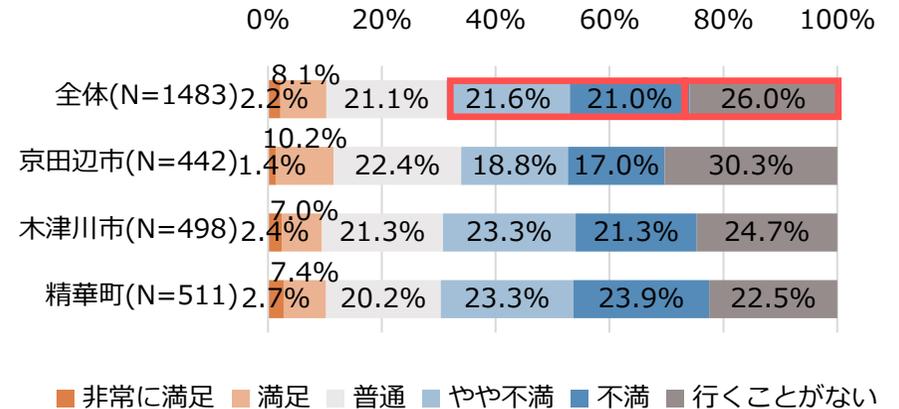
■奈良市内へのアクセス満足度



■大阪市内へのアクセス満足度



■関西国際空港へのアクセス満足度

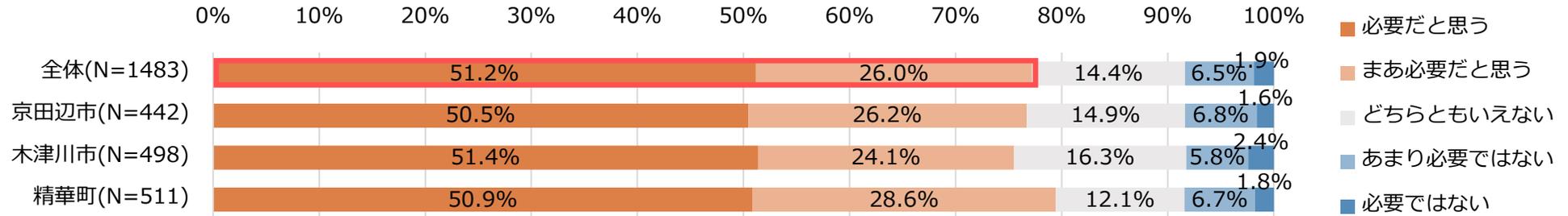


1. 住民アンケート | 調査結果

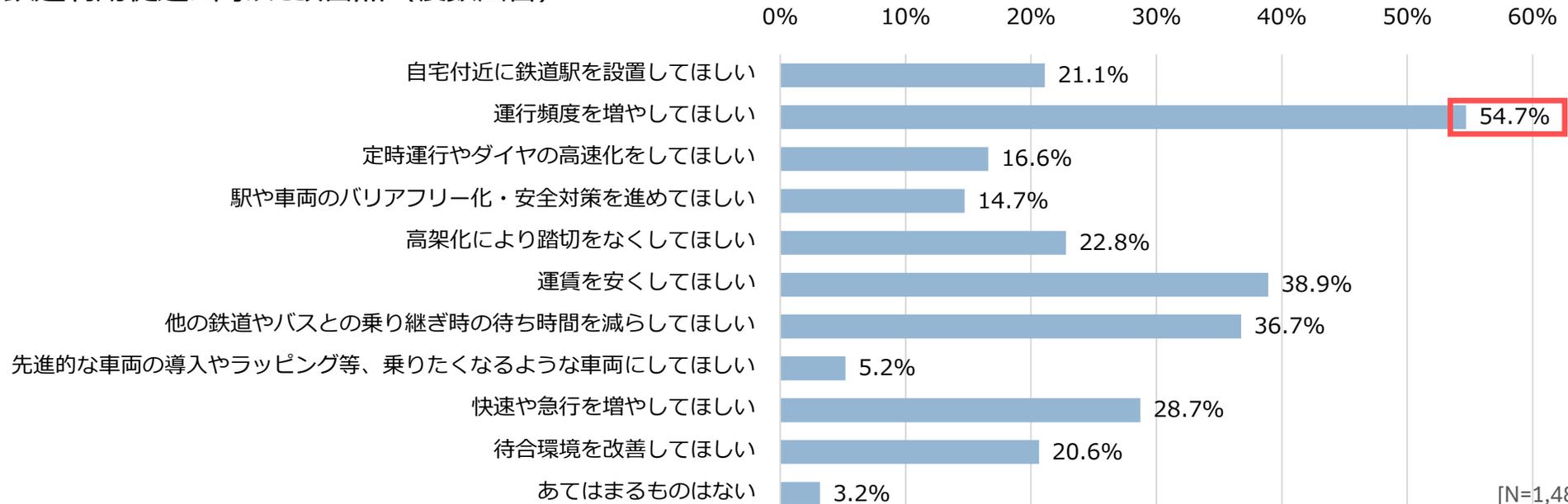
調査結果③ 公共交通に対する要望等

- **鉄道の新路線整備・複線化に対するニーズは全体の約8割から挙げられている。**
- 鉄道の利用促進に向けた改善点では、**運行頻度の増加に対するニーズが最も大きい。**

■ 鉄道の新路線整備・既存路線の複線化に対するニーズ



■ 鉄道利用促進に向けた改善点（複数回答）



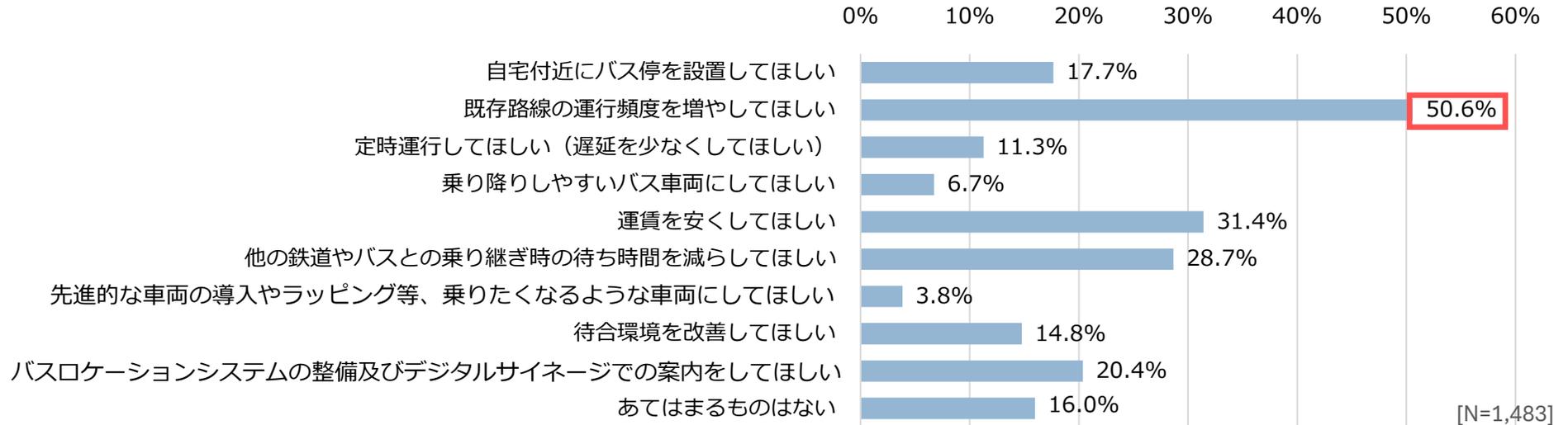
[N=1,483]

1. 住民アンケート | 調査結果

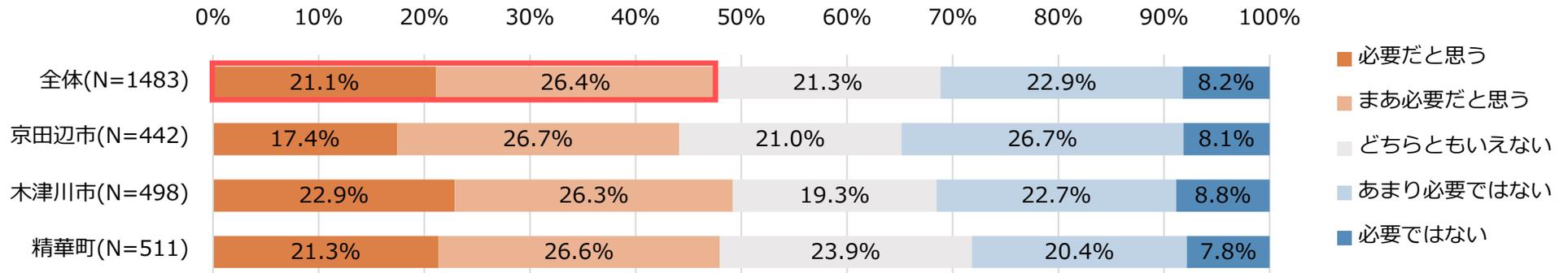
調査結果③ 公共交通に対する要望等

- バスの利用促進に向けた改善点では、**既存路線の運行頻度の増加に対するニーズが約51%と最も大きい。**
- 全体の約48%が、**2市町に移動できるバスについて「必要」「まあ必要」と回答。**

■バス利用促進に向けた改善点（複数回答）



■自宅付近から2市町へ移動できるバス等の新設について

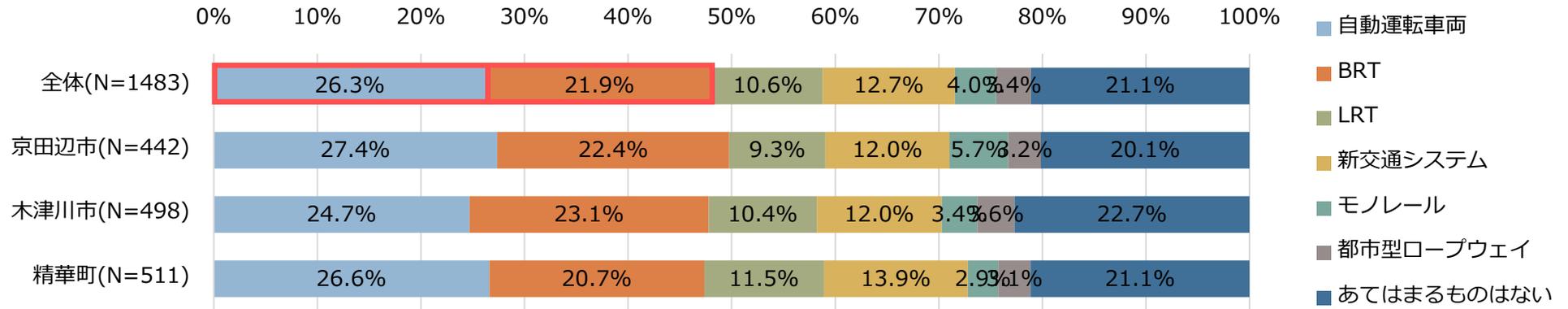


1. 住民アンケート | 調査結果

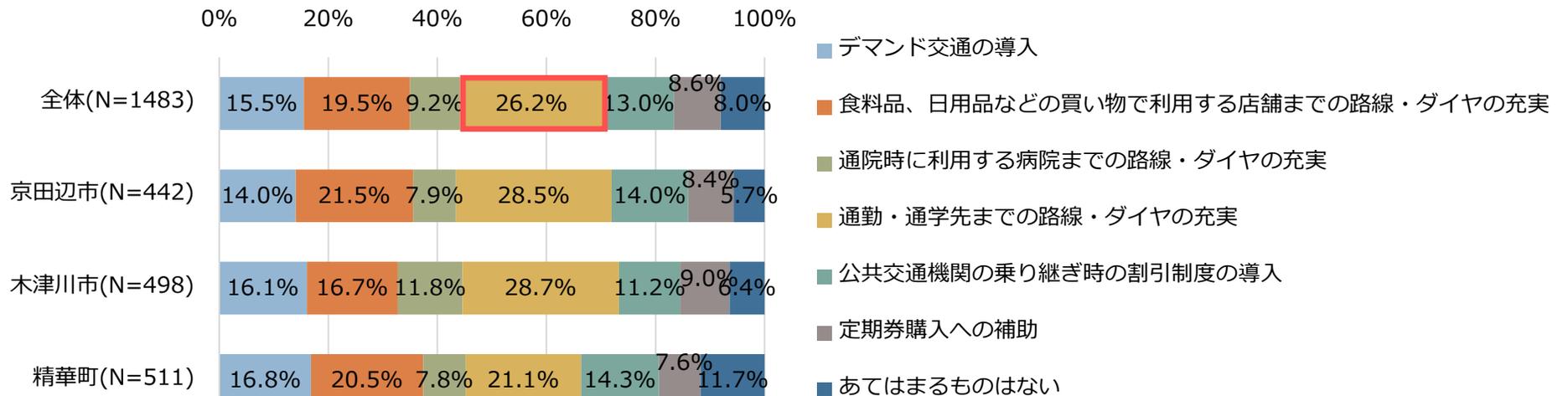
調査結果④ 今後の公共交通の運営に対する意向

- 新たな交通モードとして導入を期待するものとして、**自動運転**や**BRT**を挙げる意見が多い。
- 公共交通利用促進につながる取り組みとして、**「通勤・通学先までの路線・ダイヤの拡充」**へのニーズが最も大きい。

■ 新たな交通モードの導入に対する期待



■ 公共交通利用促進につながる取り組み

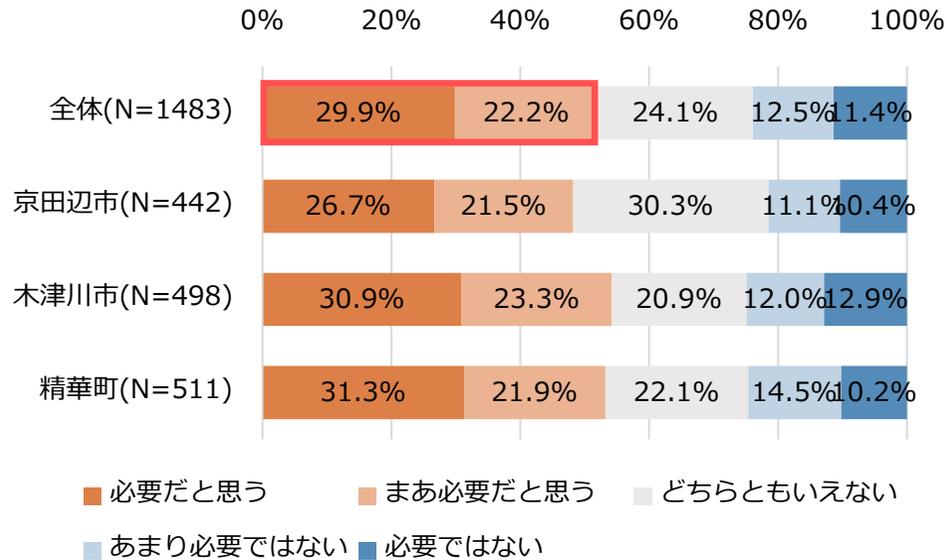


1. 住民アンケート | 調査結果

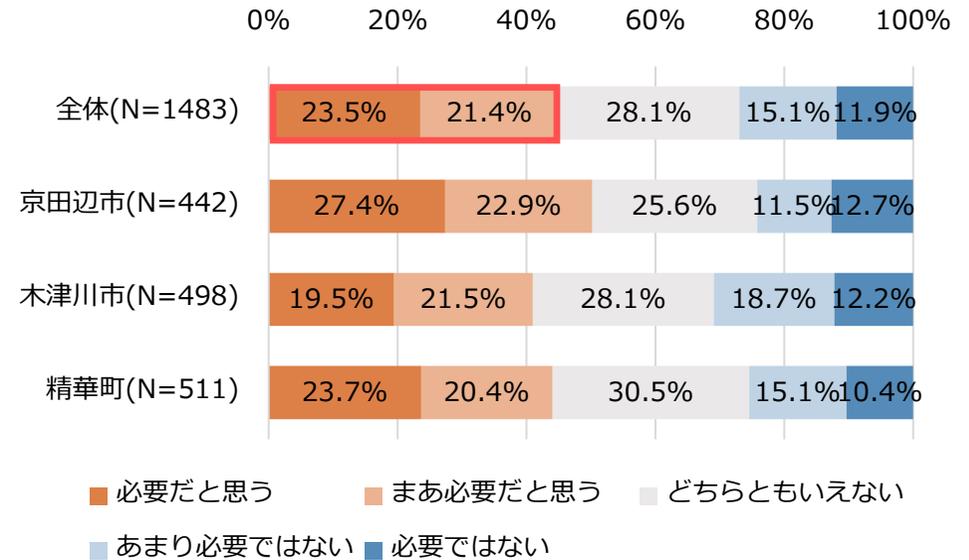
調査結果④ 今後の公共交通の運営に対する意向

- リニア中央新幹線の中間駅設置について、全体で約52%が「必要」「まあ必要」と回答。
- 北陸新幹線の中間駅設置については、全体で約45%が「必要」「まあ必要」と回答。

■ リニア中央新幹線の中間駅設置に対する意見



■ 北陸新幹線の中間駅設置に対する意見



1. 住民アンケート | 調査結果のまとめ

回答者属性	<ul style="list-style-type: none">• 回答者構成は、生産年齢人口（64歳以下）が回答者の約83%。• 職業は、会社員・公務員が4割以上を占める。• 自家用車を運転すると回答した人は全体の約76%。
移動特性	<ul style="list-style-type: none">• 通勤・通学時の移動手段は、29歳以下の約68%が鉄道を利用しているが、年代が上がるにつれて鉄道の分担率が下がり、30～64歳では約54%が自動車（自分が運転）を利用している。• 通院時、買い物時の移動手段は自動車が多い。レジャー時の移動手段には自動車に加え、鉄道も多く利用されている。
公共交通に対する要望等	<ul style="list-style-type: none">• 京都市内、奈良市内へのアクセス満足度に比べ、大阪市内や関西国際空港へのアクセス満足度は低い傾向。• 木津川市はほかの2市町より、京都市、奈良市、大阪市へのアクセス満足度が低い傾向。• 鉄道の新路線整備・複線化に対するニーズは全体の約8割から挙げられている。• 鉄道利用促進に向けた改善点では、「運行頻度を増やしてほしい」が最多。• バスの利用促進に向けた改善点では、「既存路線の運行頻度を増やしてほしい」が最多。• 2市町に移動できるバスについて、全体の約48%が「必要」「まあ必要」と回答。
今後の公共交通の運営に対する意向	<ul style="list-style-type: none">• 公共交通の利用促進につながる取り組みでは、「通勤・通学先までの路線、ダイヤの充実」が最多。• リニア中央新幹線・北陸新幹線の中間駅設置について、いずれも約5割が「必要」「まあ必要」と回答。

2. 企業アンケート | 調査概要

○通勤時の移動実態や、公共交通利用可能性等を把握することを目的として、けいはんな学研都市（京都府域）内に位置する企業の従業員に対してアンケート調査を実施した。

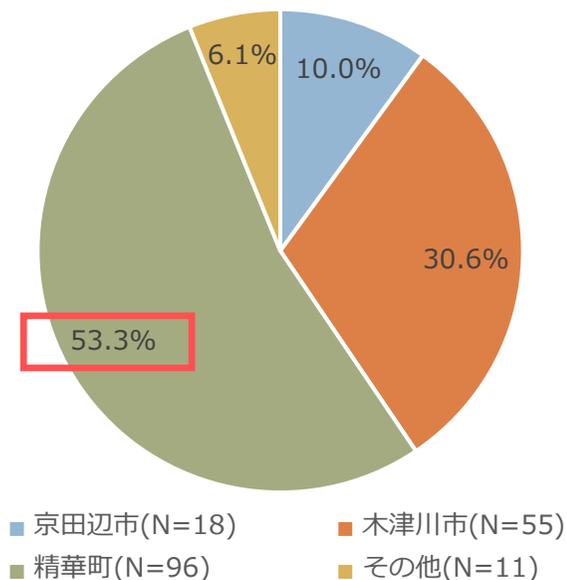
対象	区域内的の企業81社 京田辺市：D-egg入居企業15社に依頼 木津川市：木津地区、平城・相楽地区、精華・西木津地区立地企業のうち31社に依頼 精華町：主に精華・西木津地区立地企業のうち35社に依頼
方法	WEBアンケート方式（WEBによる入力・回答） （調査対象企業に対して調査票（WEB）メールにて送付） ※1社あたり3名以上の協力を依頼
期間	2024年7月1日～7月19日
回答	180票
内容	<ul style="list-style-type: none">● 回答者属性<ul style="list-style-type: none">・勤務地、年齢、性別、勤務先、運転免許保有状況● 移動特性<ul style="list-style-type: none">・出勤時間、退勤時間・通勤時に利用する交通手段・地域外・他クラスター等への出張有無、出張時に利用する交通手段● 通勤・出張時の公共交通利用に対する要望等<ul style="list-style-type: none">・通勤時、出張時に公共交通を利用する上での課題・通勤時、出張時の公共交通利用を促す有効な取り組み● 今後の公共交通整備に向けた意向<ul style="list-style-type: none">・けいはんな学研都市内で公共交通が整備された際、行きたい目的地

2. 企業アンケート | 調査結果

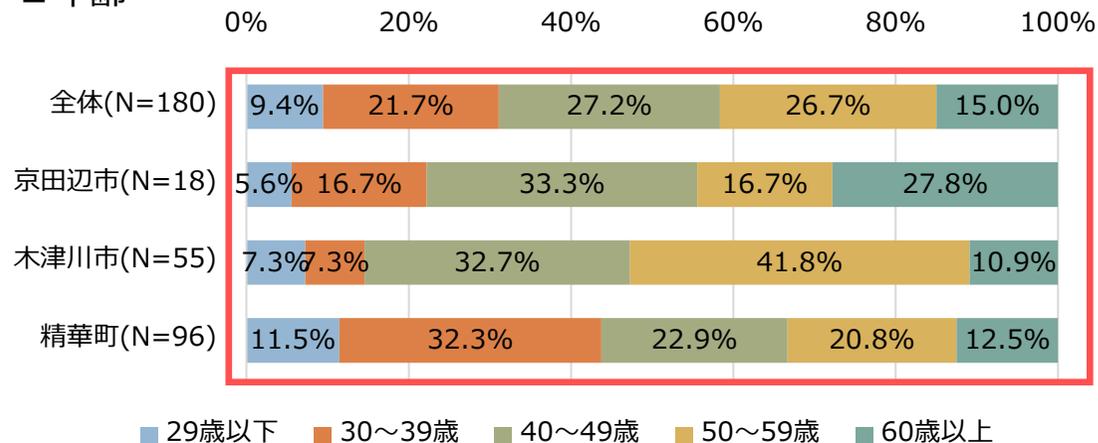
調査結果① 回答者属性

- 回答者の半数以上が精華町内への通勤者。
- 幅広い年齢層から偏りなく回答を得られた。

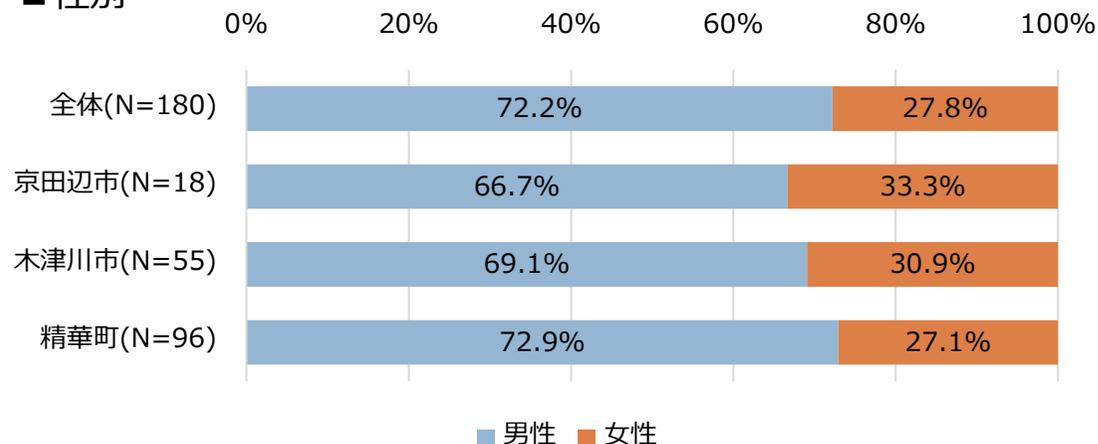
■勤務地



■年齢



■性別

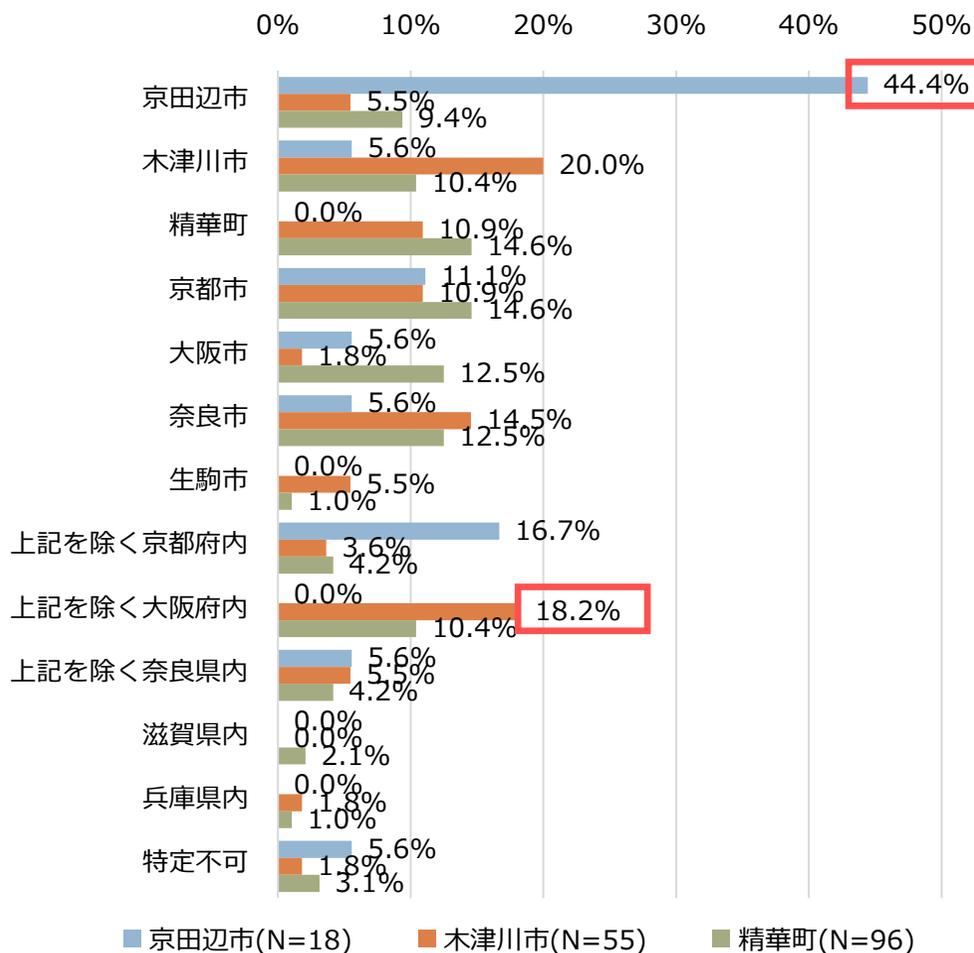


2. 企業アンケート | 調査結果

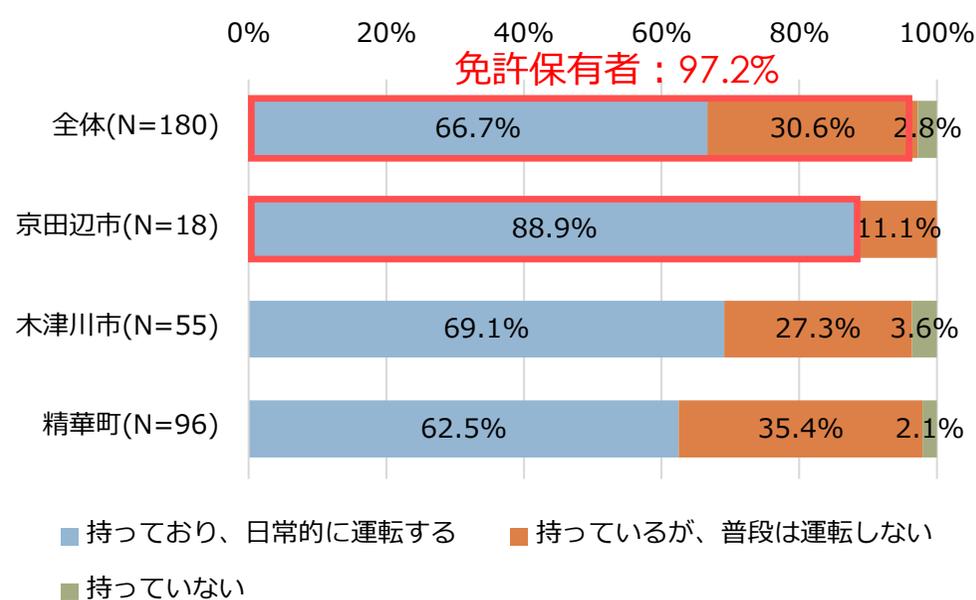
調査結果① 回答者属性

- 京田辺市内に立地する企業の従業員のうち44.4%が京田辺市民である。
- 一方、木津川市、精華町は他地域からの通勤者が多く、特に木津川市は大阪市以外の大阪府内からの従業員が18.2%を占める。
- 運転免許保有率は97.2%であり、66.7%が日常的に運転する。特に京田辺市内への通勤者は日常的に運転する割合が高い。

■居住地と勤務先との関係（縦が居住地）



■運転免許保有率

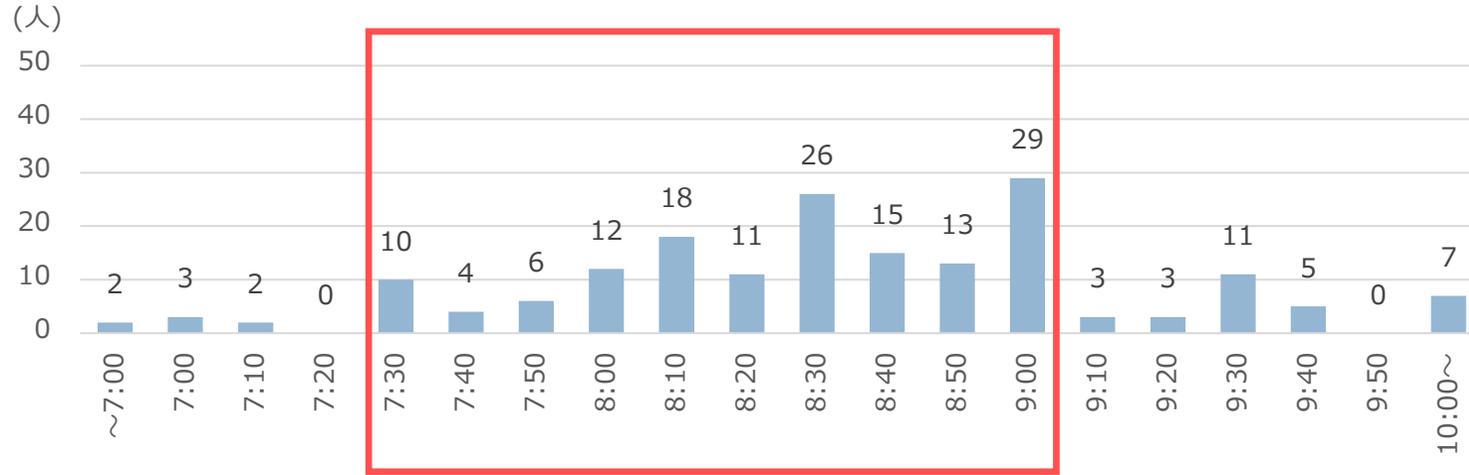


2. 企業アンケート | 調査結果

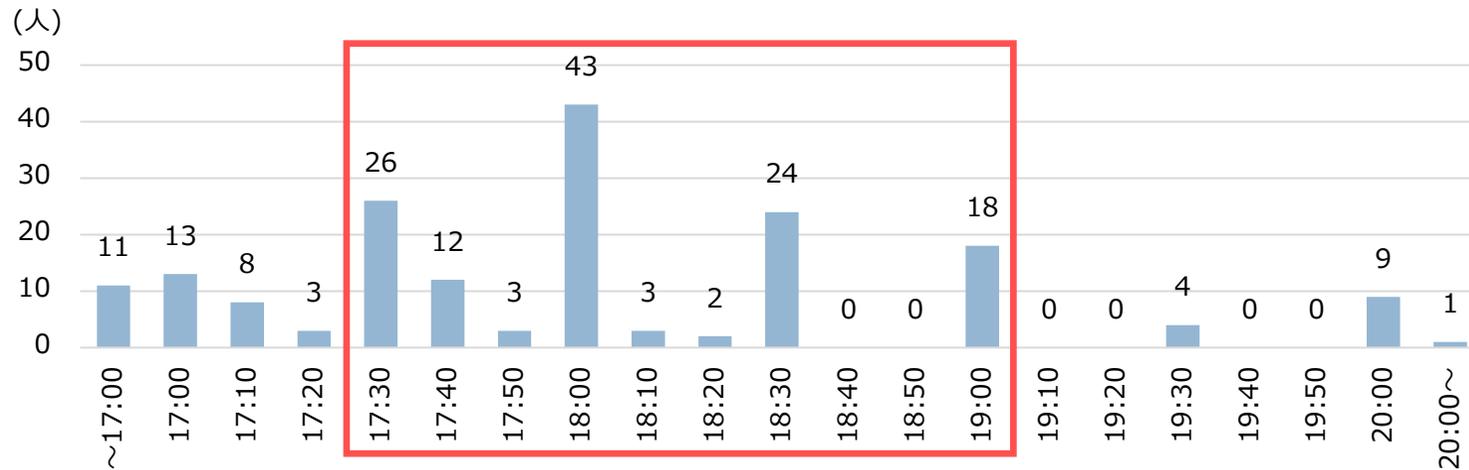
調査結果② 移動特性

○通勤時間のピークは7:30～9:00、退勤時間のピークは17:30～19:00となっている。

■出勤時間 (N=180)



■退勤時間 (N=180)

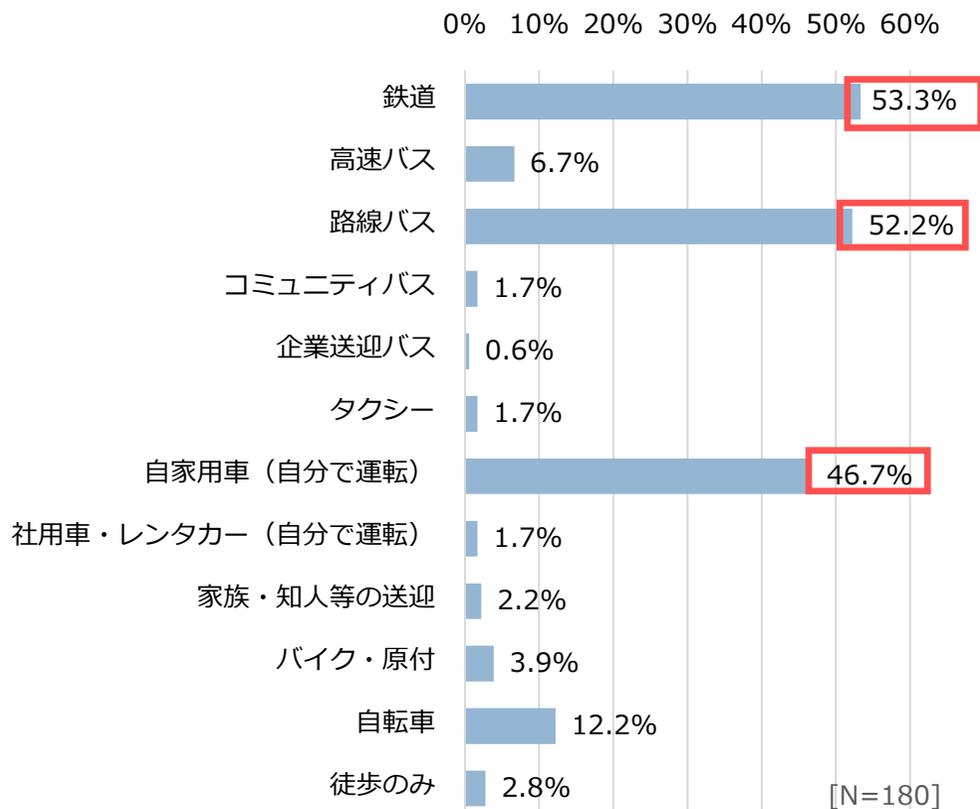


2. 企業アンケート | 調査結果

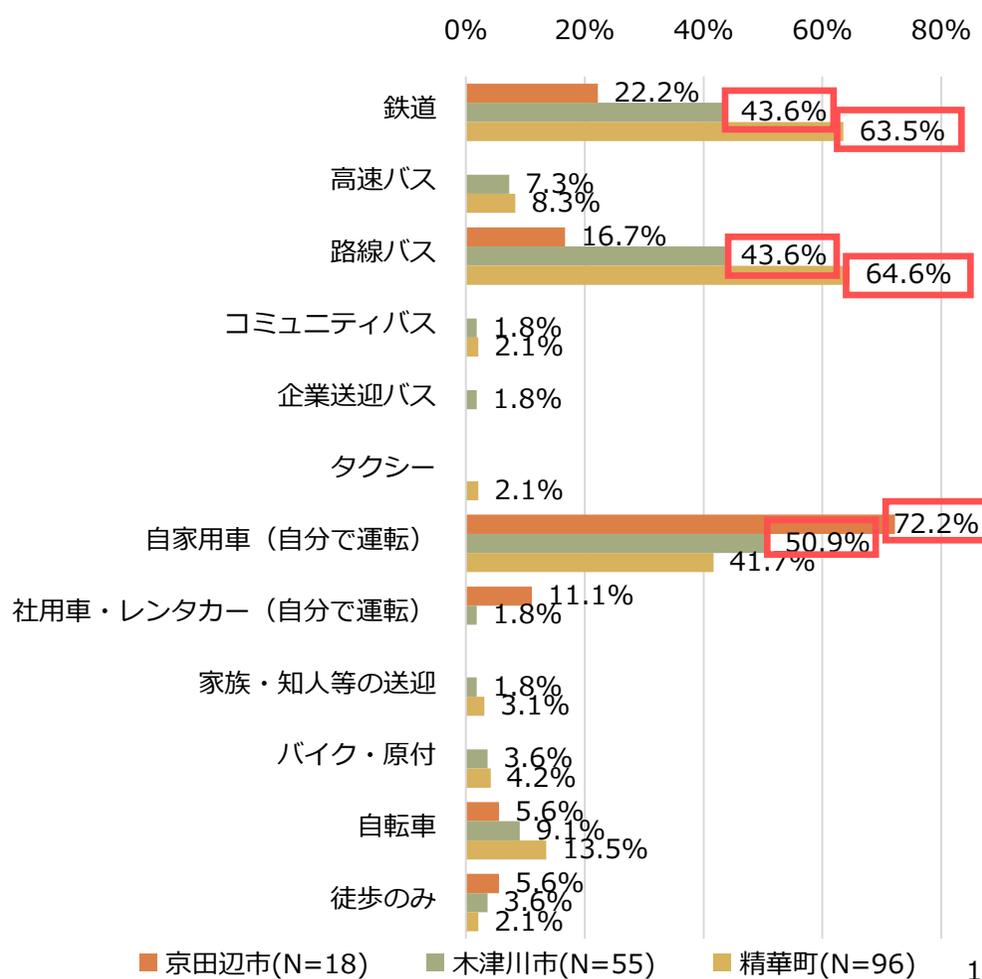
調査結果② 移動特性

- 通勤時の交通手段として、**鉄道、路線バス、自家用車（自分で運転）**の割合がそれぞれ約5割となっている。
- 市町別では、**京田辺市は自家用車（自分で運転）、精華町は鉄道、路線バスが多い。木津川市は鉄道、路線バス、自家用車（自分で運転）がほぼ同数。**

■通勤時の交通手段（複数回答）



■通勤時の交通手段（通勤先市町別）（複数回答）

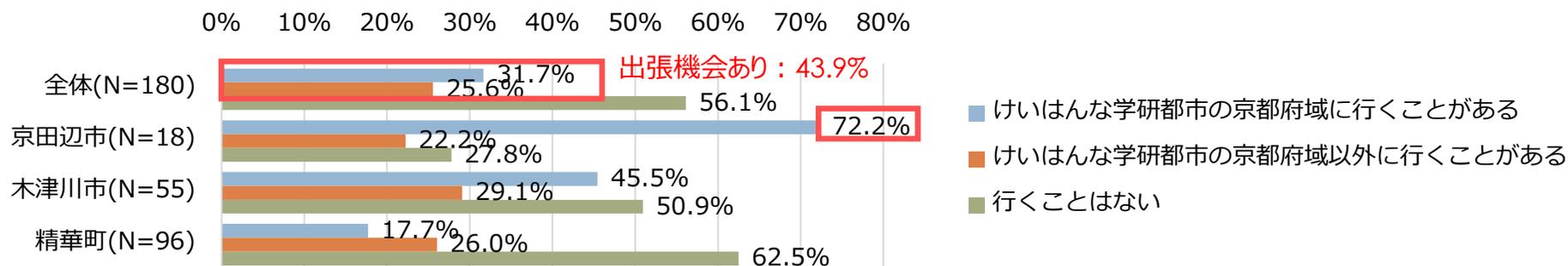


2. 企業アンケート | 調査結果

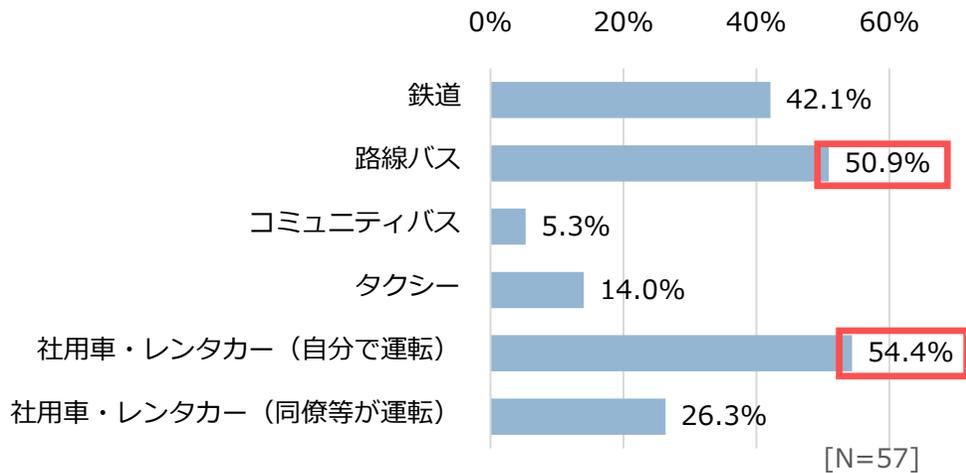
調査結果② 移動特性

- 回答者の**43.9%**が、**業務上での出張機会がある**と回答しており、特に京田辺市内に立地する企業の従業員は、72.2%がけいはんな学研都市（京都府域）内の出張があると回答。
- 学研都市「内」での出張には**路線バス、社用車・レンタカー（自分で運転）**が多く利用され、学研都市「外」での出張には**社用車・レンタカー（自分で運転）**の割合が減り、**鉄道、路線バスの利用が増える**。

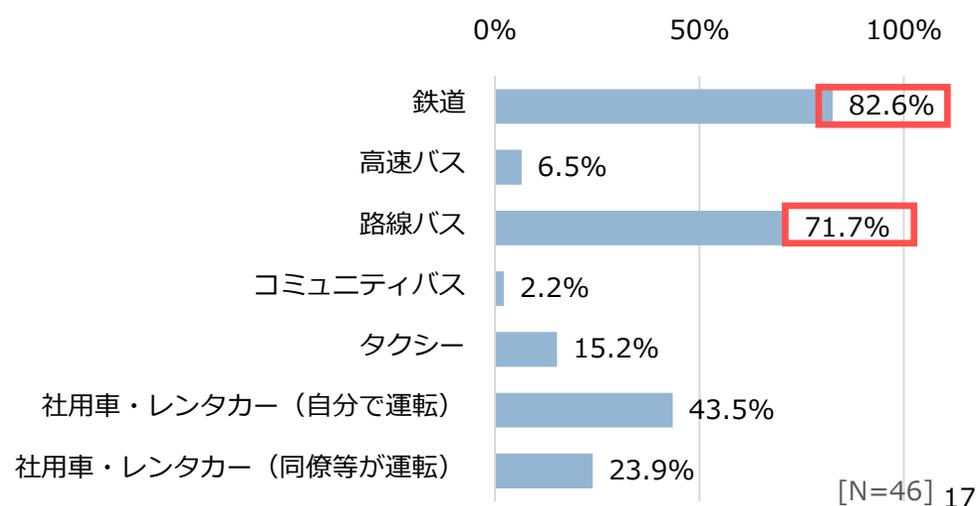
■ 業務上での出張の有無（複数回答）



■ 地域内への出張時の利用公共交通（複数回答）



■ 地域外への出張時の利用公共交通（複数回答）

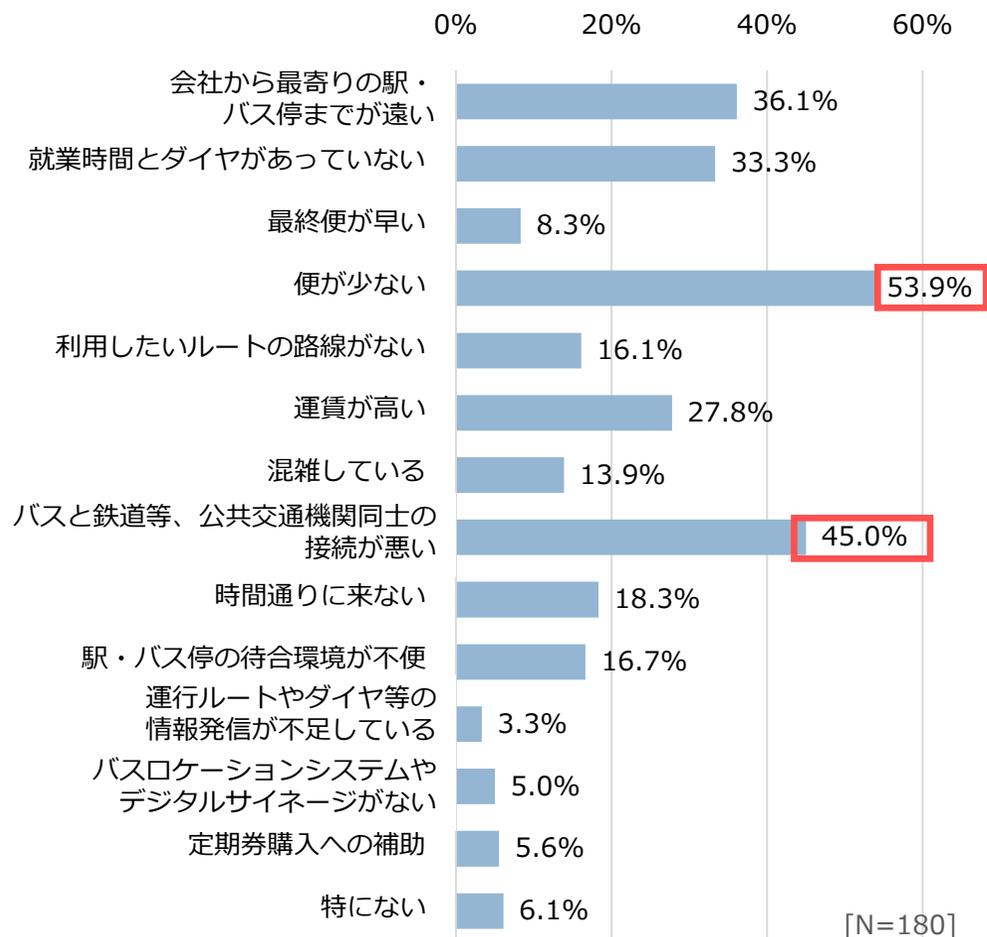


2. 企業アンケート | 調査結果

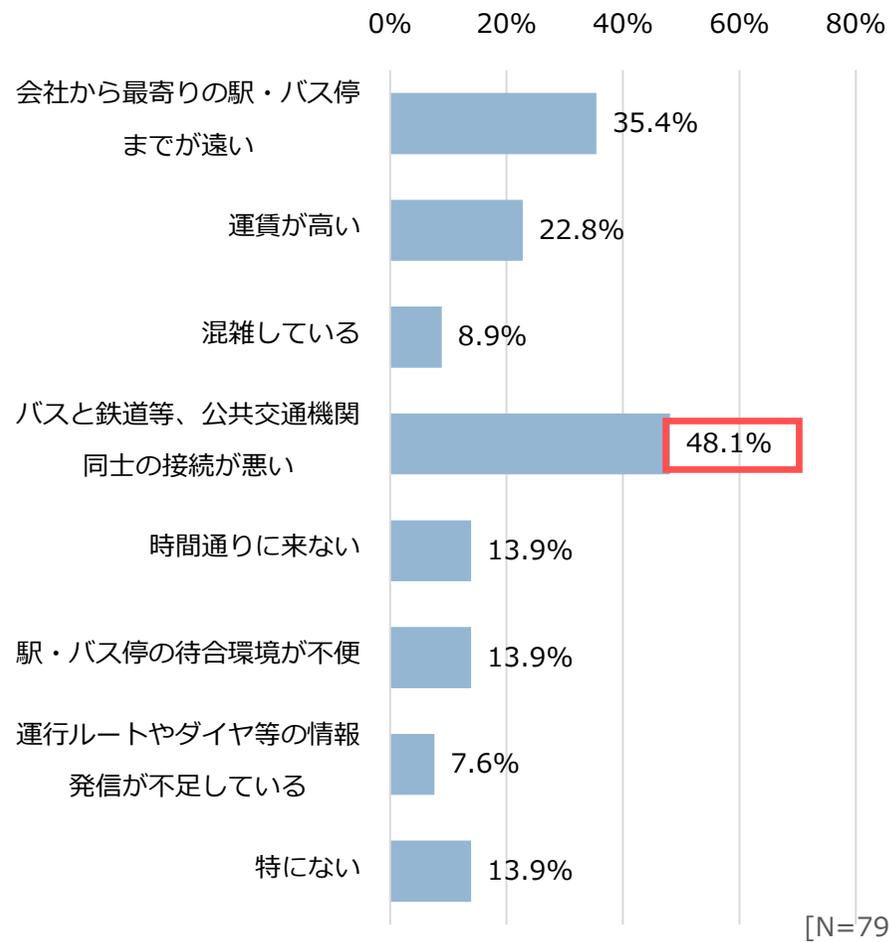
調査結果③ 通勤・出張時の公共交通利用に対する要望等

- 通勤時に鉄道・バス等を利用する際の課題として、「**便が少ない**」点を挙げる人が53.9%と最も多く、次いで「**バスと鉄道等、公共交通機関同士の接続が悪い**」が45.0%から挙げられている。
- 出張時に鉄道・バス等を利用する際の課題としては、「**バスと鉄道等、公共交通機関同士の接続が悪い**」点を挙げる人が48.1%と最も多い。

■ 通勤時に鉄道・バス等を利用する際の課題（複数回答）



■ 出張時に鉄道・バス等を利用する際の課題（複数回答）

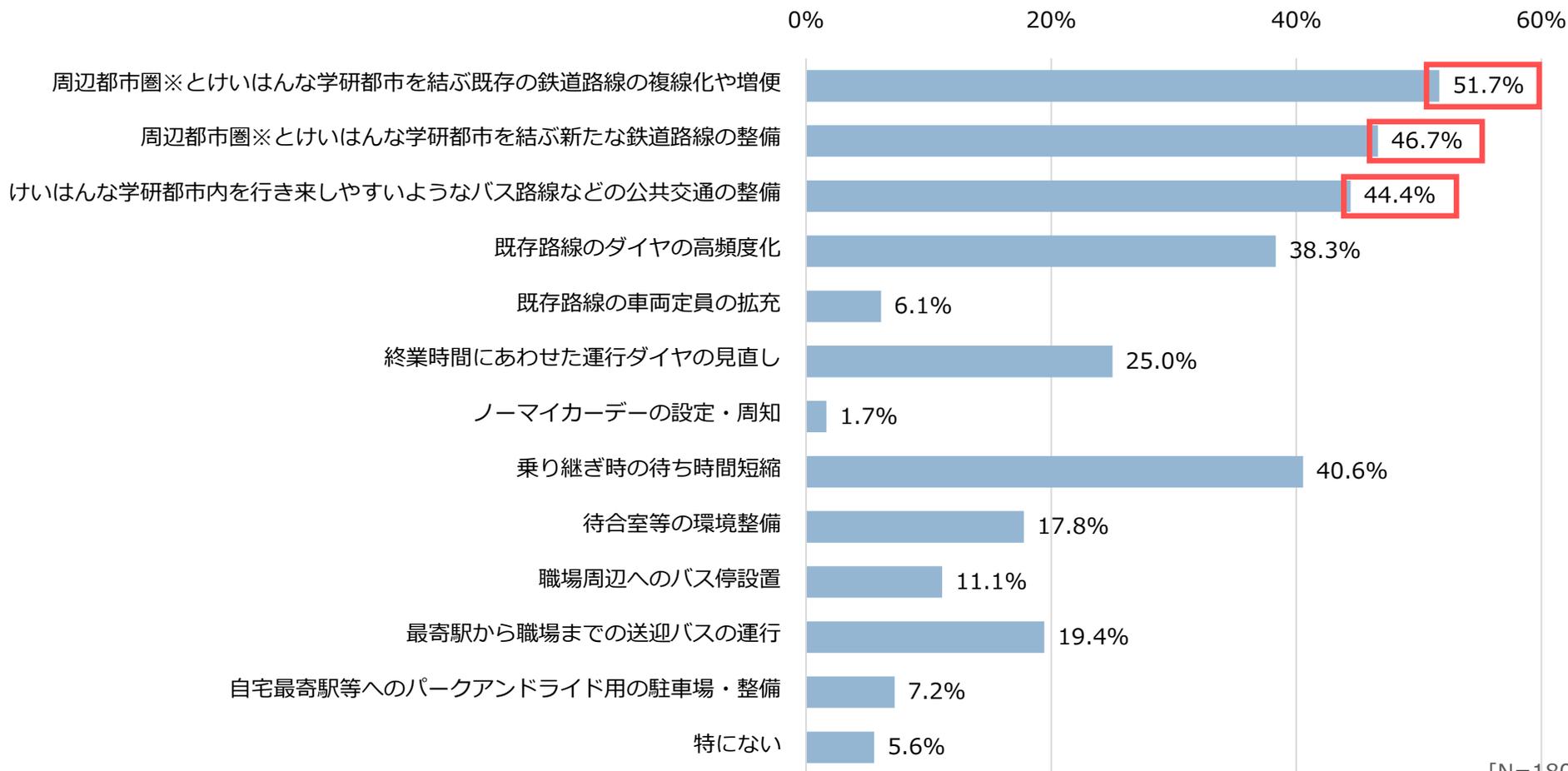


2. 企業アンケート | 調査結果

調査結果③ 通勤・出張時の公共交通利用に対する要望等

○通勤時、出張時の公共交通利用を促進する取り組みでは、**京都市・大阪市・奈良市までのアクセス向上や、地域内を行き来しやすいようなバス路線などの公共交通の整備**などを挙げる意見が多い。

■通勤時、出張時の公共交通利用を促す有効な取り組み（複数回答）



[N=180]

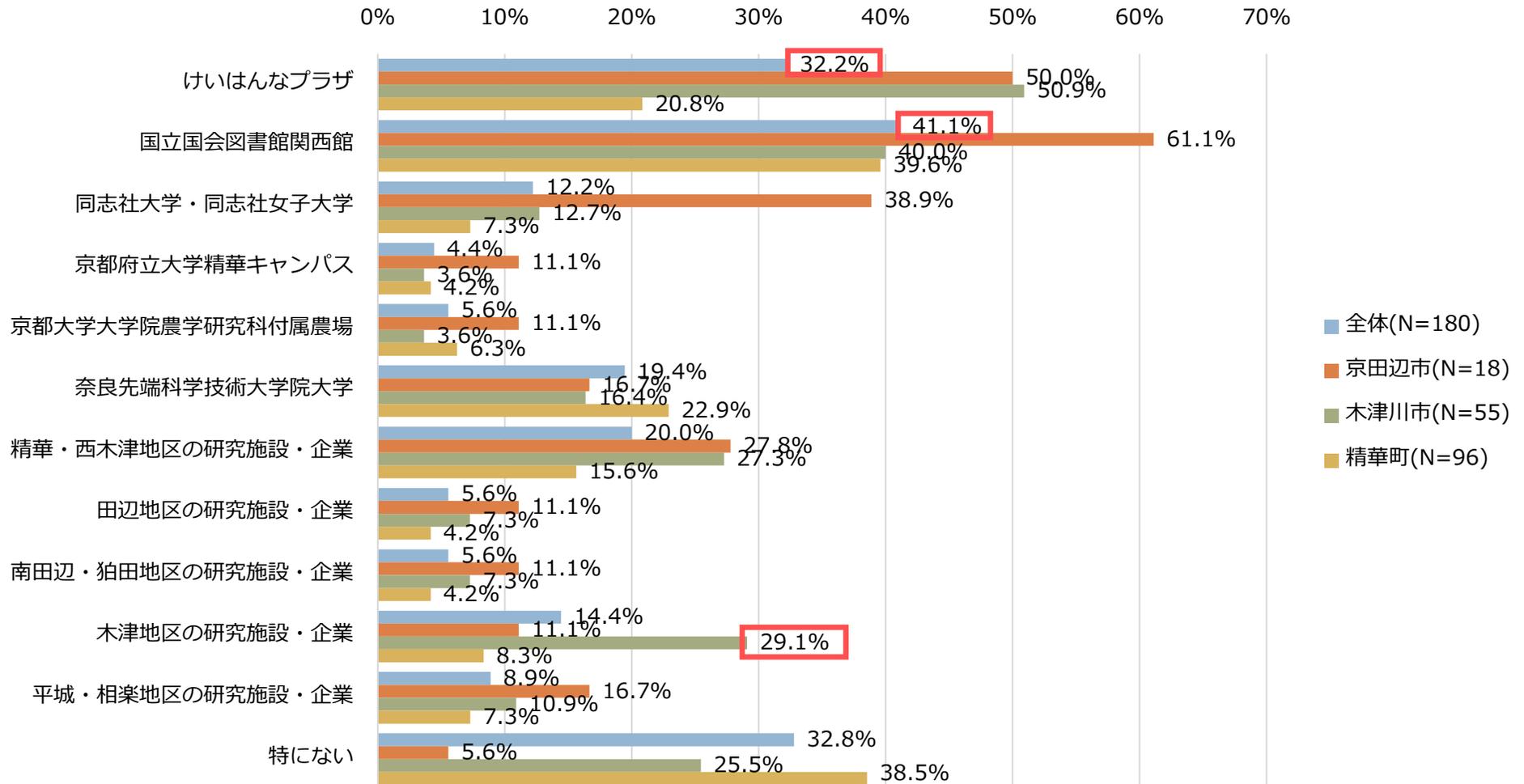
※周辺都市圏：京都市、大阪市、奈良市など

2. 企業アンケート | 調査結果

調査結果④ 今後の公共交通整備に向けた意向

- けいはんな学研都市内の公共交通が整備された場合に行きたい目的地は、**国立国会図書館関西館**が41.1%と最も多く、次いで**けいはんなプラザ**が32.2%となっている。特に京田辺市内に立地する企業の従業員からのニーズが大きい。
- **木津川市内に立地する企業の従業員は木津地区内の移動へのニーズが大きい。**

■ けいはんな学研都市内を行き来しやすいように公共交通が整備された際、行きたい施設等（複数回答）



2. 企業アンケート | 調査結果のまとめ

回答者属性	<ul style="list-style-type: none">• 回答者の半数以上が精華町内への通勤者。• 京田辺市内に立地する企業の従業員は京田辺市民が多い。一方で、木津川市内／精華町内に立地する企業の従業員は木津川市、精華町以外にも分散。• 運転免許保有率は97.2%であり、66.7%が日常的に運転する。
移動特性	<ul style="list-style-type: none">• 出勤時間のピークは7:30～9:00、退勤時間のピークは17:30～19:00。• 通勤時の交通手段として、鉄道、路線バス、自家用車（自分で運転）の割合がそれぞれ約5割。市町別では、京田辺市は自家用車（自分で運転）、精華町は鉄道、路線バスが多い。木津川市は鉄道、路線バス、自家用車（自分で運転）がほぼ同数。• 回答者の43.9%が、業務上での出張機会があると回答しており、特に京田辺市内に立地する企業の従業員は、72.2%がけいはんな学研都市（京都府域）内の出張があると回答。• 学研都市内での出張には路線バス、社用車・レンタカー（自分で運転）が多く利用され、学研都市外での出張には社用車・レンタカー（自分で運転）の割合が減り、鉄道、路線バスの利用が増える。
通勤・出張時の公共交通利用に関する要望等	<ul style="list-style-type: none">• 鉄道・バス等を利用する際の課題として、「バスと鉄道等、公共交通機関同士の接続が悪い」や「便が少ない」点を挙げる意見が多い。• 通勤時、出張時の公共交通利用を促進する有効な取り組みとして、京都市・大阪市・奈良市までのアクセス向上や、地域内でのバス路線等の整備を期待する意見が多い。
今後の公共交通整備に向けた意向	<ul style="list-style-type: none">• 公共交通が整備された場合に行きたい目的地として、国立国会図書館やけいはんなプラザを挙げる意見が多い。• 木津川市内に立地する企業の従業員は、木津地区内の移動にニーズがある。